

令和5年度

印西市民アカデミーだより

第9号

講座10：歴史散策② 結縁寺地区

毎年、9月28日に行われる結縁寺の開帳に合わせて、本講座を開催しています。コースは、船穂コミュニティセンター⇒①船尾宗像神社⇒②船尾白山神社⇒③結縁寺・入定塚・熊野神社⇒④頼政塚⇒⑤名馬塚⇒船穂コミュニティセンター(約4km)です。季節外れの真夏日にも負けず元気に散策しました。

①福岡県宗像市に鎮座する宗像大社は、日本神話に登場する日本最古の神社の一つです。祭神は、市杵島姫命、湍津姫命、田心姫命の三女神で、古くから各地に分霊が祀られており、現在約6,200社の神社に祀られています。印西近郷には、印旛沼の北岸に13の宗像神社が集まっており、全国的にも特異な地域となっています。この船尾宗像神社の開創は不祥ですが、室町末期には鎮座していたと推測され、元文2年(1737)に京都の吉田殿から



鳥居はなく、しめ縄が張られています。

正一号の神号を授受しました。この神社には鳥居がなく、鳥居を建てると洪水になるという言い伝えによるもので、昔、たまたま鳥居を建てた年に洪水に見舞われたことがあったためと言われています。

②船尾白山神社は、地元では、「いぼ神さま」とも呼ばれています。体にできたいぼを社殿に奉納されている左廻りの縄1本を借りてきて、この縄でこすると治るといふ伝承からこう呼ばれています。いぼが治ったら、同じ左廻りの縄1本をお礼として奉納する習わしがあります。



極彩色に彩られた本堂

③奈良時代初期、行基によって創建されたという結縁寺は、広大な寺域に六坊を有する大寺でした。寺名は、平安時代の天慶年間(938~946)に寺に入った真言宗の僧が、春秋二度の「結縁勧請」といふ仏縁を結ばせる儀式を行ったことに由来するといわれています。この本堂に安置されているのが、国の重要文化財に指定されている銅造不動明王立像です。国指定の文化財の不動明王の中で、銅造はこの像を含め3像しかなく貴重なものです。この像を手の届く距離で拝観できるのはここだけです。結縁寺の鎮守である熊野神社に登る手前にあるのが、頼政の遺徳を慕って、伊勢の国から訪れた女性が入定したと伝えられている入定塚です。塚には小さな石碑が建てられています。

④治承4年(1180)、平家打倒に挑んだ源頼政は、拳兵に失敗し、宇治平等院の境内で自害したといわれています。この頼政の首を埋めた場所として伝えられているのが、結縁寺の東南の山林にある頼政塚です。頼政は、死に際して家臣に「わが首を持って東国に向かい、首が重くなって動かなくなったところに塚を築いて首を葬れ」と遺言したとされており、家臣たちが東国に向かい急に首が重くなったところがこの辺りと伝えられています。



塚の前には糸が添えられています。

⑤結縁寺の西南にあるのが、頼政の首を運んできた馬を葬ったといわれている名馬塚です。塚の傍らには刻像塔や文字塔の馬頭観音が十数基あり、馬の好物の人参がときおり供えられています。

刻像塔や文字塔の馬頭観音が十数基あり、馬の好物の人参がときおり供えられています。